

幼稚園細目 (續き)

馬場 定 一

恩物

十數年以前には、幼稚園の實際は、恩物や、作業の材料

の使用に關する限りに於ては、既定のフレイベル法が、若しくは少くとも、當時幼稚園界の人々に由りて發表せられたるフレイベル法の解釋に従ふものである。此の頃には、現代の心理學の要求が、既に保姆の注意を惹き初めても居し、又名のある心理學者は公然と當時の幼稚園法を攻撃したもので其の結果、漸時保姆は心理學や現代教育學の研究に更に一層注意深くなり、又自分等自身のやつて居る方法を新しき神の告の光に照して見る様に刺戟せられて來た。創意と勇氣とに富み且つ自分自身の實行はフレイベルの論理の根本原理即ち、子供の自己活動を破壊しつゝあるもの

である事を認むる様になつて居た、保姆達は漸次其の方法を變へ、幼稚園の恩物や作業の使用に於て新しく組織を更め初めたのである。

◎

當初世人の注意は、よく發達して居ない、手の補助筋を過勞しない爲及び眼の過勞を避ける爲に、幼稚園時代の子供にはもつと大きい材料を以て作業をさせる様な機會が與へられねばならぬと云ふ必要に惹かれて居た。此の關係から、恩物特にフレイベル作業は多くの教育者から激しく酷評せられた。

故に自然保姆は恩物に對して崇拜的の考を持たないで、唯單に目的を達する手段に過ぎないものとして居たので、初めには是等の材料を持つて遊んで居る子供等を研究し、

漸時試験的にもつと大きな材料を持たせる様に進歩して、この新しい出發が子供等に如何なる効果齎すかを認め初めた。保姆は第一恩物の一吋及び半吋の球、或は第二恩物の二吋の型は變化させる必要を認めなかつたが、積木には直ちに、一層大にしてもつと堅固なもの、價値を認めた。小さい第五恩物を持って居る子供を見ると、其の恩物は儘かに神經的精力及び手の發達しない筋肉の過勞だと云ふ事が解つた。保姆は以前には氣が付かなかつたけれども、是等の積木を組立てやうとして居る子供の顔は赤くなり、又或るものは、甚だしき神經的緊張が現はれて居る事を認めた。板並べ、箸、扁豆等は、折角これを以て色々な形をこしらへても、すぐ形がくづれてしまふので、子供の心を苦める事が少くなかつた。保姆はもつと大きな材料を使へば屹度是等の困難を取り去り除いて、心理學者の要求に應ずる事が出来るのだといふ事が直ぐに解つて來たので、擴大せられた恩物の材料で其の經驗を始めたのである。それは八ヶ間敷くてとてもやりきれないだらうし、又子供等にも持つ事が出来ないかも知れぬといふ心配を抱いて警戒した人も

あつた、けれども是等の障害に對して大膽に、其の試みに出發し、そして六ヶ月以内に於て大きな材料の完全なる改宗者になつてしまつた。保姆は豫告した通り、子供等が是等の材料を箱から取り出すのに大變に八ヶ間敷い事を認めたが、同時に小さい材料に較べると、拵へた形がめつたに轉覆しない程安定である事をも觀察した。又子供は其の積木を容易く且つ勝利者の心持で持つて居る事も直ぐ解つた。是等の積木の此の大きな箱は何か骨折甲斐のあるものであり、又子供等の生育上何か役に立つもののやうであつた。小さい材料を使用して居た時にあつた過勞は今は無くなつて、子供等は此の新しき大なる材料の使用に由りて、より大なる且つより多く満足な、創造的仕事をする様に刺戟せられ、其仕事は唯に保姆により多くの満足を與へたのみならず、特に子供等に満足を與へた。

◎

恩物の大きさの變化は假令幾分フレーベル氏の材料の既定の用途から概して多少離れる様になるかも知れないが、直接其の使用方法的變化には及がなかつたのである。爾後數

年間は現代教育學的考察に一層接近した手段に保母を導く様に感化が働いた。此の頃まで恩物の數學的方面の取扱は過度に力を入れられて來たのであつたが、多くの熱心なる保母は自ら次の如く向ふ様になつた。此の貴重なる時間の浪費は何の爲だらう？」と、而して數、斷片的な部分及び幾何學的の形態等は恩物を以て教へる事が出來たので、四歳から六歳までの此の小さい人間に實際に教へられて居た。或は「それは遊んで居る内に教へたのだ」と云ふかも知れぬが、併し、随分強制的な、人工的な遊び方に退化した事であらう！ 子供がも少し發達して來ればもつとよく適し、もつと後になれば何れ丈か慥かに且つ楽しく安全に理解出來る様な數學的事實や考を、何の爲に此の可憐な小さい頭に注ぎ込んだのであらうか？ 哲學的洞察を以て深く浸み込まされて居る保母達は、其洞察に於て將來の價値を見、而して以前は慥かに無かつた所の現在の利益を洞察したのであつた。熱心なる保母は其の子供の幸福を求めんが爲に、かゝる手段に就いての子供の將來の事を感じ、かくして彼女は、是等の小さい子供等の頭を、萬一覺えて居

たにしても小學校に這入つてから直ぐに忘れてしまふ筈の數學的觀念を以て満す事になつたのである。彼女は最も進んだ小學校に於ても、數學は第一學年に於ては單に偶然の部分として課せられて居るのである事が解りかけて居た。教育者も子供等がもつと後の年齢に達して其理解力が、もつと十分に發達して來てから、數學を教へる方が得策であらうと云つて居る事も解りかけて居たのである。それならば何故幼稚園で恩物の數學的方面に力を入れねばならぬのか？

或る熱狂的な保母は、幼稚園は小學校の一年級の爲に準備して居るのでは無く、て、人生の爲に準備して居るのに何故小學校の一年級に於てする事を考へねばならぬのか？ と云ふかも知れぬが、若し幼稚園が小學校組織の一部分であるならば、保母は一年級の要求を考へないわけには行かぬ。兩者の關係は直接にして、生きたものたるべきであつて保母はその仕事をするに方つては心の中に小學校の要求を意識してかゝらなければならぬ。然らざれば幼稚園は小學校組織に於ては認められない事になるだらう。

又注意深かき保母は時の進むに従つて、自分の實行はフレーベル氏原理の重要な主義を打壊しつゝあるのだと云ふ事が解る様になつた。恩物を數學的に使用するのに必要な、夫れ程澤山な時間、注意深かく編まれたる豫定及び、命ぜられたる仕事に對しての、夫れ程多くの時間は、恩物の仕事にあてがはれた時間を、餘りに貪り過ぎて居る。其結果として、子供は保母がもくろんだ目的の遂行の爲には活動することがであるが、自己活動の發表、即ち内在せるものを外界に出す爲には、唯僅かの時間しか持つて居ないと云ふ事になる。故に幼稚園に於ける子供等の眞に効果のある仕事は、恩物に關してにせよ作業に關してにせよ何れにした所で、毎週々々發表の爲の之等の手段に使用する時間に比較すると實に瘠せ細つたものである。子供等は恐らく近所の建物で鋭角は發見する事が出来るだらう、けれども獨立的動作に關しての發達は全く減じられて居たのである。故に保母は、所謂フレーベル法には従つて居なければならぬ。フレーベル氏の格言「子供はなす事に由りて習ふ」と

云ふ事に殆んど従つて居ないといふ事を非常に感じて來

た。茲に於て幼稚園の恩物及び作業に就いてはフレーベル法に従ふ可きであるが、或はフレーベル原理の根底に横つて居る主義に従ふべきであるか、其の何れを取るかに就いて自分に反問させられる様になつた。

又保母は、かう云ふ方法で仕事をして行く事は、其の内容の最も豊富にして子供の想像を最もよく刺戟させる所の進歩したる恩物を持つて充分に仕事をさせ、又は遊ばせる事から子供を切り取つてしまふものであるといふ事を發見した。初期の恩物を以て小さい事柄に多くの時間を使用した爲に、年の終に方つて、子供等の効果ある活動に對してかゝる立派な機會を提供する所の恩物を有意義に使用させる爲には僅かの時間しか残つて居ない。茲に於て保母は、色々な外形を持つて居る幼稚園も、從來の自分の仕方は間違つて居つたのであつて、自分の考のまゝに任せられて居る子供等に「全自己の徹底的發達の爲の機會」を與へんが爲には、其方法に根本的の改革をなす必要があるといふ事を感ずるに至つた。

保姆は材料を以て論争する事をしなかつた。其材料には子供の創意的活動を起さしむべき立派な可能性の存在せる事を知つて居たから、幼稚園の積木以上に、子供の發達が日進月歩の時勢に應じ得るもつと適切な如何なる木片をも工夫する事は出来なかつた。保姆は其のやり方を變ずる爲に、總ての發達は生長の過程を貫して始めて其効果を致す事が出来るのだと云ふ事實を見失はない様にせねばならぬ事を認めた。又如何なる僥倖的方法も其の目的を達する上には、あてにならぬといふ事を認めた。他の言葉で云へば確實にして繼續的の發達が安全に得られねばならぬとすれば、「毎日の仕事は前日の仕事の上に築かなければならぬ」といふ事である。

其手段の改革をなすに方つて、自分を括る枷を全然投げ捨て、しまつて遂に自分の考へ通りに自由になる人の様に不注意には行はないで、寧ろ教育學の確實なる主義を信じ時と經驗が其の見識に附加へたる處に根據をおいて、注意深く改革を加へ、其最初の出發を改め之を正し終に稍次の如き案を基本とせる仕事を持つに至つたのである。

a 恩物を以てする總ての仕事を支配する所の根據は自己活動の根據たるべき事。

他の言葉で言へば、恩物を以て實行せらるゝ仕事は、命ぜられたものであつても乃至はさうでなくても、次の如き立場に由りて判断せられなければならぬ。即ち、「此の事は子供に於ける自己活動を發達させる爲に計畫された事か？」又は「子供等は眞に自己活動的であるか？」

b 其方法の目標は生産的の課業か又は創造的の課業に子供を導くべき事。

c 恩物を以てする總ての仕事の主なる注意は遊びに對する注意たるべき事、

幼稚園に於ける遊びは屢々普通の課業になつて仕舞ふもので子供等自身も權威が加へられ力が附加せられる事を課業と思つて居る。是は過程としては當然であるが、材料の使用が長引いて形式的な倦々する様なお稽古になつて來る場合には遊びの精神は殺されて仕舞つてほんとうの舊式な準小學校となるのである。

d 恩物を以ての遊びは次の三つの形式の一つを取る事

が出来る。

1. 絶対の自由遊び

經驗的
創造的

2. 考へのみ指導せられたる自由遊び

3. 指導せられたる遊びと考

「絶対の自由遊び」といふ言葉の中に吾々は、經驗的及び創造的の二つの遊びの型を持つものである。最初に積木を彼等に渡してやると、彼等は其を以て試験する様に許される。其間保母は「受動的になり且つ注意深く」見て居る。

其後子供等が其の材料の管理及び支配を得るに至れば、彼等の仕事は初めの試みから考の能く定まつた創造的の企に進んで行く。簡單に云へば、吾々は子供等の内的生命の芽さしであるが故に價値があるのである。

考の指導せられたる遊び及び自由なる遊びは、子供が自分自身の考通り實行し得る様な仕事の方面に子供を保つものである。是は子供に或る定まつた方向の努力を続けさせる訓練となり、且つ初期の聯絡關係の無い離々の仕事から漸時に遠ざからしむるものである。此の方法の利益は後に

なつて明かに子供の絶対自由遊びに於て見らるゝ筈である。

私が特に此處に「絶対自由遊び」と云ふ言葉を用ふるのは、私の經驗で見ると大概の幼稚園では眞に自由の意味を持つて居ない遊びに「自由遊び」の言葉を用ひて居たからである。

考へ及び遊びの兩者共に保母に管理せらるゝ指導遊びは、材料の可能的使用法を子供に暗示するといふ主なる目的を以て與へられるのである。數は附帶的に是等の遊びに入れる事が出来る。形態も比較的簡單な場合には子供等の注意を惹くに足るけれども、主要なる目的は、持つて居る材料によつて子供の自己活動を一層すゝめる事である。

指導の問題は、新しき經驗の獲得に於て使用さるゝ事を望む所の本能と衝動に對する適當なる刺激を選択する問題である。如何なる新しき經驗が望ましきか？ 即ち如何なる刺激が必要であるか？ と云ふ事は、其目的とする所の發達に就て相當の理解があるに非れば、云ひ換へると、子供に開かれたる可能なる其の生活を表はす事に大人の知識が引用せらるゝに非れば、之を云ふ事は出

來ない（デューウィー博士、「子供と教課」りよ）

此の理由を以て指導遊びは規則として十五分以上を使用することはよくない。其残りの時間は、斯くして提供せられたる新しき考への適用の爲に子供の使用すべきものである。

f 擴大せられたる恩物の材料は幼稚園全過程を貫して使用せらるべき事。

g 大きい方の子供には其の時間の大部分を進んだ恩物を以て遊ぶ爲に提供してやる事、

恩物のフレイベル式使用が勢力を持つて居る多くの幼稚園に於ては、既に述べたるが如くに、内容の最も豊富にして従つて創造力をより多く刺戟し、且つ建設的使用に最も効果ある恩物を使用する爲には、子供等に僅かの時間しか與へられて居ない。初歩の恩物分解や形態を教へる爲に澤山の時間を使用する時は、進みたる恩物を知らせる爲に如何なる適當なる時間も與へる事は出来ない。

進みたる恩物とは特に第五及び第六恩物、三角形の板及び環を意味するものである。

保守的な保母の間に極普通に容れられて居て、稍廣く適

用せられて居る或る細目では、構成的恩物の第一である所の第三恩物を第九週に出し箸を第十六週に出し、正方形の板は第十九週に出して第四の恩物は第二十八週まで出て來ない。而して第五、第六恩物は殆んど一つも出て居ない。

十週間の間は子供等は殆んど獨占的に子供の自己活動の總ての刺戟の最も少い第一と第二恩物に保たれて居た。

此の細目は今は多少の改革が行はれて居るが、數年前に流行した方法をよく現はして居る。

ミス、ブローは、恩物を眞にフレイベル法に由つて使用し之を實現するには少くも四年間を要すと云つて居る。處が米國の幼稚園の課程は二年であつて、しかも多くの子供は唯一年若しくは一年の一部分しか這入ないから、自然此の事は、米國の必要に相應して、内容の豊富なる恩物を利用する事の出来る様に正規のフレイベル法を變化させる必要を論證するものである。

米國の子供は大概幼稚園に這入る前に二三の形の積木には親しんで居る。外國の子供は別であるが、第三恩物と數

も大きさも全然同じではないけれども、立體の木片に親しんで居ない子供は稀である。故に子供等は立體の木片はよく知つて居り、且つ大きい子供なら慥かに其の可能性をも幾分か諒解して居る。其れだのに何故幼稚園へ這入つてから後何週間も此の木片を使はせられねばならぬだらう？

第三恩物の養分的要素は極少い。是を以て何週間も其想像力が養はれて居る子供は飢えて居る小さい動物である。彼は扱ひ易き（幼稚園に於てのみ扱易いのであるが）従順な小さい大人であつて、或る幼稚園に於ては毎日餘り大きく象どり過ぎて居る。此の過程は自己活動の意義を取消するものである。幼稚園に這入つて來る四歳乃至六歳の子供は活氣に満ち熱心にしてしかも能力あるものである。それだのに何故最初から、目的を達する爲には如何なる困難にも打ち勝たしむる所の自己活動を刺戟する様な材料を與へないで、其の力を働かせる上に何等價値の無い刺戟を與へない様な物で仕事をさせたり遊ばせたりするのだらう？

「父親が子供の通り路に丸太を轉がしておいても子供は「何ほ置いたつて僕等は幾らでも飛び越えて行ける」と叫

びながら容易く通つて行く。子供は第一回には難義をして其を乗り越えるのである。けれども此の事は自分自身の力で仕遂げた事である。そして力と勇氣とが生じて來て、歸つて來る時にも一度其障害物に打ち勝ち、間も無く容易く之を取り除ける事を覺えるのである（「人の教育」とフレイベルは云つて居るが、幼稚園の子供は全く之と同様である。恩物の使用にはこの暗示を心に持つてする事が必要である。

恩物の使用に就いての暗示。

新しき出發（今は最早新しくないが）の許に實行せらるべき仕事の詳細を書く事は此の章の範圍に於ては不可能であるが、其仕事の特質や目的の一部分を暗示する處の梗概を書く事は役に立つ事と思ふ。

第一恩物——能動的の遊、動き方と色の遊、即ち簡單なる方向（ころがること、上下すること等の如き）を表はす遊び、原色、色の種族。

小さい方の子供には單純なる能動的の遊びを始めに課せ

ば自然動作の遊びに導かれる。色の遊びは若しさせるならば保姆の指導に由るが好い。大きい方の子供には、先づ動作と色とに關する遊びをさせて、其方向と色とに就いてどんな智識を持つて居るかを決定し、かくして得たる要求に應じて後の遊びを授けるのである。此の恩物を以ての遊びはゲームの形を取る。

第二恩物——各の特徴を發見させる爲に三つの形を以ての實驗的遊び、與へられたる形態の名稱、是等の形の他の目的に關しての名稱（形の種族）廻轉の遊び、簡單なる機械的發明、團體遊。

小さい方の子供小さい方の子供には能動的遊びの爲に最初に球と立體とを與へ、次に是等の物體の特徴（球はころがり立體はじつとして居る）に注意する様に導く。次に續いて之等の特徴が特に強められる様なゲーム例へばナインピンズの如きものを行ふ。それから少し後になつてから同じ様な風にして圓柱を提示する。其の次に其形態を或る單純な構成的仕事か又は砂場などの遊びに子供等が利用するゲーム及び多分團體遊びも行はれる。形態の分解は教へ

ない、即ち面、角、稜等は表はさない。此の恩物は唯時々使用するのみである。

大きい方の子供には廻はず遊びがさせられ、後になつて壺釘を用ひたる箱を與へて、機械的發明の方面に其の熟練を試みらるべき機會が與へられる。

積木

第三恩物——子供によりての實驗、指導の遊、主に大人の作つた何かを説明する爲の物を模倣して作る形、子供の創造の仕事。

此の恩物は第一週に於て小さい方の子供等の實驗の爲に提供せられる。是から、指導遊びは前にも述べたる通り甚だ簡單なものである。子供等が熟練して來れば毎週全體の時間が自由遊びに與へられ、斯くして創造の仕事への路に出發させられるのである。

學期の終頃になつて子供等がまだ發見して居なかつたらば、恩物を或る中心の周圍に對稱的に排列する事が出来る事を知らしめる。若し大きい方の子供の中に幼稚園は初めて來たものが澤山に居れば、保姆は其の仕事や能力を觀

察しながら一度乃至二度、若し必要があればもつと度々此の恩物を以て自由遊びをさせる。若しそうで無くして、其の組の子供等が既に幼稚園に一學期も居たものである時は此の恩物の提示は省かれる。

第四恩物——實驗、此の材料の特色を表はすべき指導遊び——即ち三つの異つた面の種類、未だ子供が知らなければ平衡に關する法則の説明。家庭の道具に導かれる人形の道具の如き簡單なる構成的の形、團體遊び。

小さい方の子供には前の恩物が上手に持つ事が出来且つ使用する事が出来る様になれば直ぐ此の恩物が提示される。實驗が濟むと——是は一日の時間以上に多くの時間を——使用——第三恩物を子供等の前に置いて此の恩物との對照に注意する様に導く。それから前の積木で出来なかつた事柄で什麼事が出来るかを暗示する。尙又指導遊戲では、繰返して云ふ如く極僅かの時間丈使用して簡單なる暗示を與へる。是等に於ては其の目的とする所は、子供に新しい材料が如何なる可能性を提供するかを出來得る限り子供等自身に發見させる事であるから保姆は子供等に導かれる事で

ある。かくして保姆は子供等が其の材料を上手に且つ樂に使用する事が出来る様になるまで少しづつ、其の知識を附け加へてやるのである。又共同の目的の爲に子供等を一緒に働かせる簡單な遊びも用ひられる。其れは例へば室の道具を慥へる如き個人的の働きに由るか乃至は大きな面を取り圍むが如き、砲臺を築くが如き等の共同の努力に由るか何れでも好いのである。

此の恩物は大きい方の子供には一般に第一週に與へられるのである。若し子供等が既に此の材料に十分に熟練して居る事が其の自由遊びで分れば、必要だと思はれる時に時々第四恩物の代りに第五恩物のもつと進んだ材料を提供する。その大多數が幼稚園に初めて來たものであるならば、小さい方の子供よりはもつと早く基礎を固めては行くが、此の恩物の使用にはも少し時間を與へる。

保姆は、如何なる材料を使用するにしても、指導のもとに爲し得る事で無くして、獨立で爲し得る事を以て子供の能力を計る事に注意しなければならぬ。子供等がする構成的形態、或る目的に其の材料を適用させるのに表はす熟練

幾分か材料の可能性と限界とを見る所の能力は保姆の手段を支配するものである。小さい方の小供も大きい方の子共も既に此の材料に親しんで來れば第三と第四とを合せて使用する。

第五恩物——實驗的遊び、新しい形の名稱、新しい形の發見に關する遊び、時々模倣に由る指導せられたる形態、考の指導せらるゝ自由遊び、少くとも一週一回の絶對自由遊び、團體遊び。

既に述べたる如く、大きい方の子供には、この材料を持運が出來、且つ有利に使用する事が出來る様になり次第、出來る丈早く提供してやるのである。最初には、一つの恩物を三人の子供に與へてやつて、一箱の中を三等分して、一人の子供が其の三分の一を受取る様にする。之が濟むと、子供等は此の新しい材料の經驗を得て、之を適當に組立てる事を覺えて來るのである。子供等は、他の材料と同じ様にこの材料を以て遊び、この材料に含まれて居る新しい形を發見する様な小さい遊嬉をこの時に與へるのである。是等のゲームは二つの大きい三角錐を以て始めて、出來る丈

色々の組合せを發見するのである。それから日が経つと、進んで二つの小さい三角錐で何が出來るか、次には三つを以て、次には四つ、と漸次進んで之を發見して行くのである。

新しい積木の名前は教へるけれども、出來上つた色々の形の幾何學的の名は教へない。若し何でも聞きたがる様な子供が其の名前を聞く時には教へても好いが、訓練的な仕方をしてはいけない、幾何學的の名稱を強いる様な事になつてはよくない。是等の遊びで子供等は相互に利益を受けるのである。かくして一人の子供が、他の子供に出來ない様な六かしい形を發見した時には、其の子供は全體に之を示して他の子供に模倣させる。此の種の遊びは非常に專心を要するから十五分以上もさせない様にして、後は直ぐ自由遊をさせるといふ。

此の新しい材料を樂に而もしつかりと使用する事が出來る様になれば之を全體として與へるのである。其の時は子供等は實に成功の喜びであつて、此の魅する様な澤山の材料を征服者の態度を以て受けとるのである。遂に子供等は、

力の生長を感じるが如き感じを得る様になり、この誘惑的な積木の使用法は幾らでも考へ出す事が出来て、實に其の盡きる所を知らぬ様である。此の材料の量の増す事と形の新しい事とは、大小の木片の現出の爲めに強められて、之等の將來ある子供等に一層好き仕事の領域を開くものである。第三恩物を以て遊ぶ事は、第四恩物及び第五恩物の間を繋ぐものであるから、新材料に對しても何の躊躇も無く確信を以て之に着手する事が出来る。しばらく間の形を發見させる様な遊を續けた後には、この木片を以て、容易く色々な構成に組立てる事が出来る。大小兩形の木片が現はれた爲に、その新しい形や量の増した事は一層強められたと共に、之等小さい能力のある人々の爲に廣い場面を開いたわけである。設定の仕事を課する場合には、どこまでも暗示といふ事を離れない様にして行かなければならぬ。この恩物を以ては、フレーベル式で所謂「美麗式」と名付くが如き相稱形は、どんなものでも——子供が好んで自らやる場合その子供の自由であるが——決してこちらから與へる様な事はしてはならぬ。この相稱形を與へる事は、わ

ざと省くのであつて、それは、この恩物の性質の上から見て、組立目的とする材料であつて、構成的仕事に餘程自然的に適して居るからである。であるから保姆は、限りある時間内の仕事の排列に於て、板並べや輪の如き、相稱形を授けるに適した材料を持たせる時に特に重きをこの方面に置いて、今は之にふれない様にする方が得策だと考へるのである。組全體が合同して、例へば町を建てるといふが如き事をして遊ぶ事は、仕事としては勝れたものとして此の時に始められ、年の終り頃になつて、子供等を二人づゝ又は三人づゝの團體として、時々此の積木を以て、或る構成に組合はせるのである。

はつ眞桑堅にや割らん輪にやせん

芭蕉